

ガンバリ運転ゼロプロジェクト ～自動車事故ゼロに向けて～

2021年8月18日
損害保険ジャパン株式会社

本プロジェクトの目的

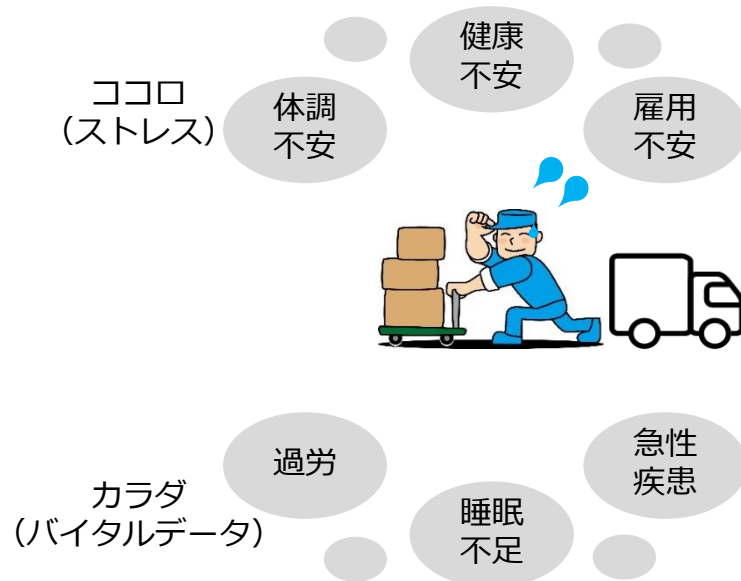
多くの事故を見てきた保険会社だからこそ、事故に遭われたお客さまをサポートすることを使命としております。

でも、私たちが本当に願うのは「事故のない社会」です。
従業員の健康管理が求められる時代に「ガンバリ運転」によって
事故を起こしてしまうドライバーを少しでも減らしたい・・・
本プロジェクトでは、健康データやコネクテッドデータを活用し、
交通事故のない安心・安全な社会の実現を目指していきます。



本プロジェクトの目指す姿

ガンバリ運転の事故を無くすべく、ココロとカラダの変化に気づくサービスの提供



ココロやカラダに無理をした状態での
“ガンバリ運転”が事故を引き起こす

=

交通事故がある社会



ココロもカラダも共に健やかな状態での
“**健やかな運転**”が事故を減らす

=

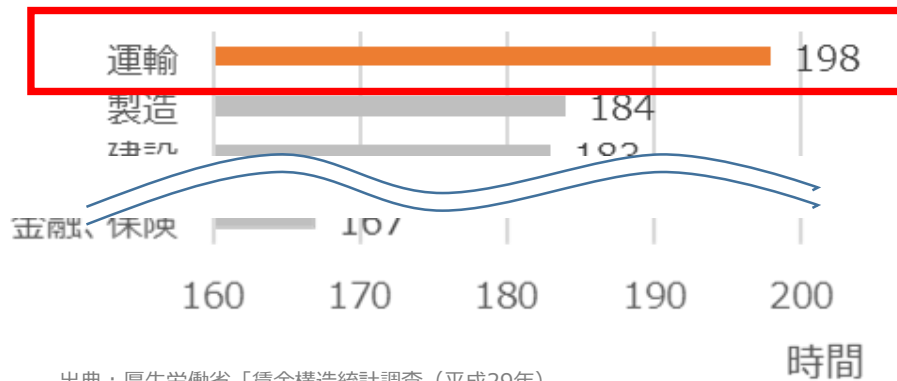
交通事故がない社会

運輸業界における社会課題

身体的・精神的負荷を抱えている状態での労働が重大事故の発生に繋がる可能性

身体的負荷

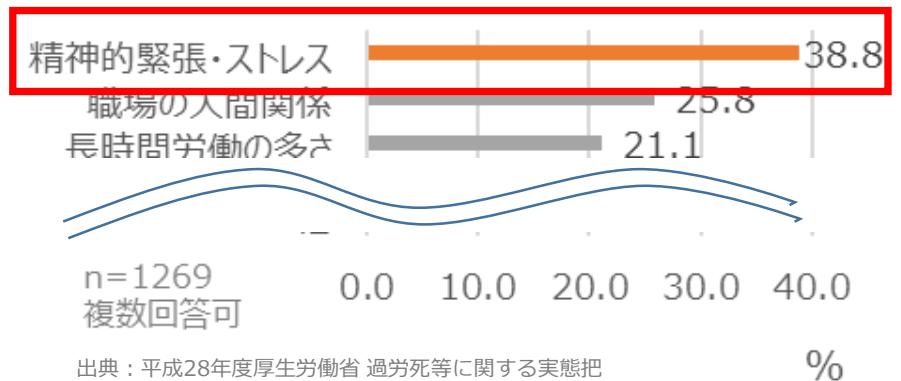
業界別労働時間



出典：厚生労働省「賃金構造統計調査（平成29年）」

精神的負荷

トラック運転者のストレスや悩み



出典：平成28年度厚生労働省 過労死等に関する実態把握のための労働・社会面の調査研究事業

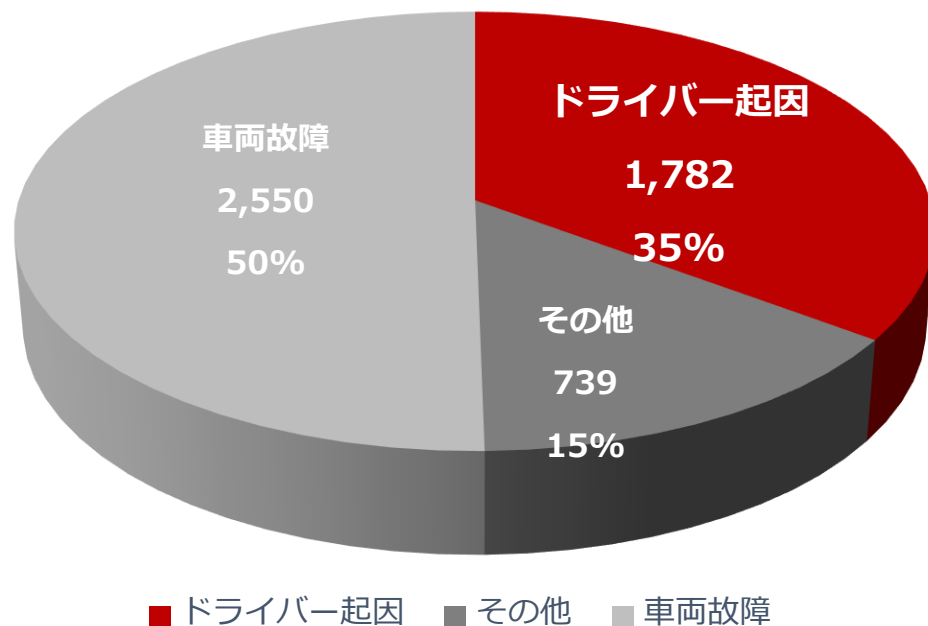
- 運輸業の1か月の労働時間は198時間と **長時間労働**
- 平均的な**睡眠時間6時間未満**が57%
- 睡眠不足や疲労で事故を起こしたこと、もしくは起こしそうになったことがあると回答したのは47.7%
- トラック運転者は**精神的緊張・ストレスを抱えている**
- 事故を起こせない**緊張感**
- 納期に間に合わせるための**焦り**

運送事業者における重大事故の現状

重大事故におけるドライバー起因事故の主な要因は運転操作不良と健康状態

重大事故件数

※重大事故とは、自動車事故報告規則第2条に規定する事故
(例) 死者または重傷者を生じたもの。



出典：国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会報告書
(平成30年度) [第2分冊]」

ドライバー起因事故の原因

事故の原因は様々ですが・・・

疲れ・いらいら・
焦りによる
運転操作不良

健康状態

運送事業者には、
運行管理者を通じたドライバーの
身体面・精神面の健康管理や指導が必要

各社の役割/強みとお客さまメリット

お客さまが使命とする確実な輸送を支援するためのソリューションの提供



安心・安全



- ・ PCS/車両ふらつき警報等
- ・ コネクティッドカー
- ・ 車載データ
- ・ エコツリーレポート



交通事故防止



- ・ 自動車事故データ
（事故地点/事故形態等）
- ・ グループ会社含め
健康領域での知見

お客さま

確実な輸送



- ・ 定刻通りの輸送
- ・ 自動車事故削減による
社会的信用の向上

プロジェクト事業の全体像

『健康データ』 × 『車載データ』 × 『事故データ』 = 『アルゴリズムの構築』

＜サービス案＞

STEP①:

点呼時の運行管理者向けサービス

スマホ

デバイス



STEP②:

運転中の事故防止サービス

シートベルト シート ドラモニ



STEP③:

日常生活改善サービス（24時間対応）

ウェアラブル端末



運転診断・車載データ



- 車載データの活用
＜活用項目＞
走行距離・急加速・急制動
運転診断・位置情報



事故データ活用



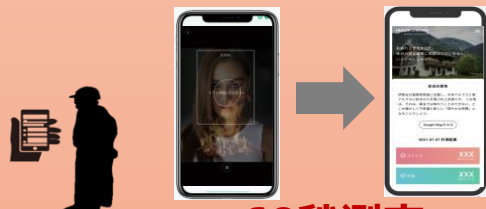
- 事故地点状況の提供
＜提供項目＞
日時・時間帯・事故多発地点
事故形態 等

✓アルゴリズムの構築による運行管理者向けのコンサルティング支援の実施

STEP①におけるサービスの仕組み

スマホを活用したストレスデータの測定による異常傾向の検知およびアドバイス

■ ストレスデータ測定のイメージ



60秒測定



- 手軽かつプライバシーにも配慮した測定方法
スマホにより、手軽に測定が可能であり、動画データ保存はなし。

■ 車載データの活用



急発進/急ブレーキ 走行時間/距離 自動ブレーキ作動 運転診断



- 車載データを活用した運転特性の把握。
エコツリーレポートを基にしたドライバー毎の運転診断。

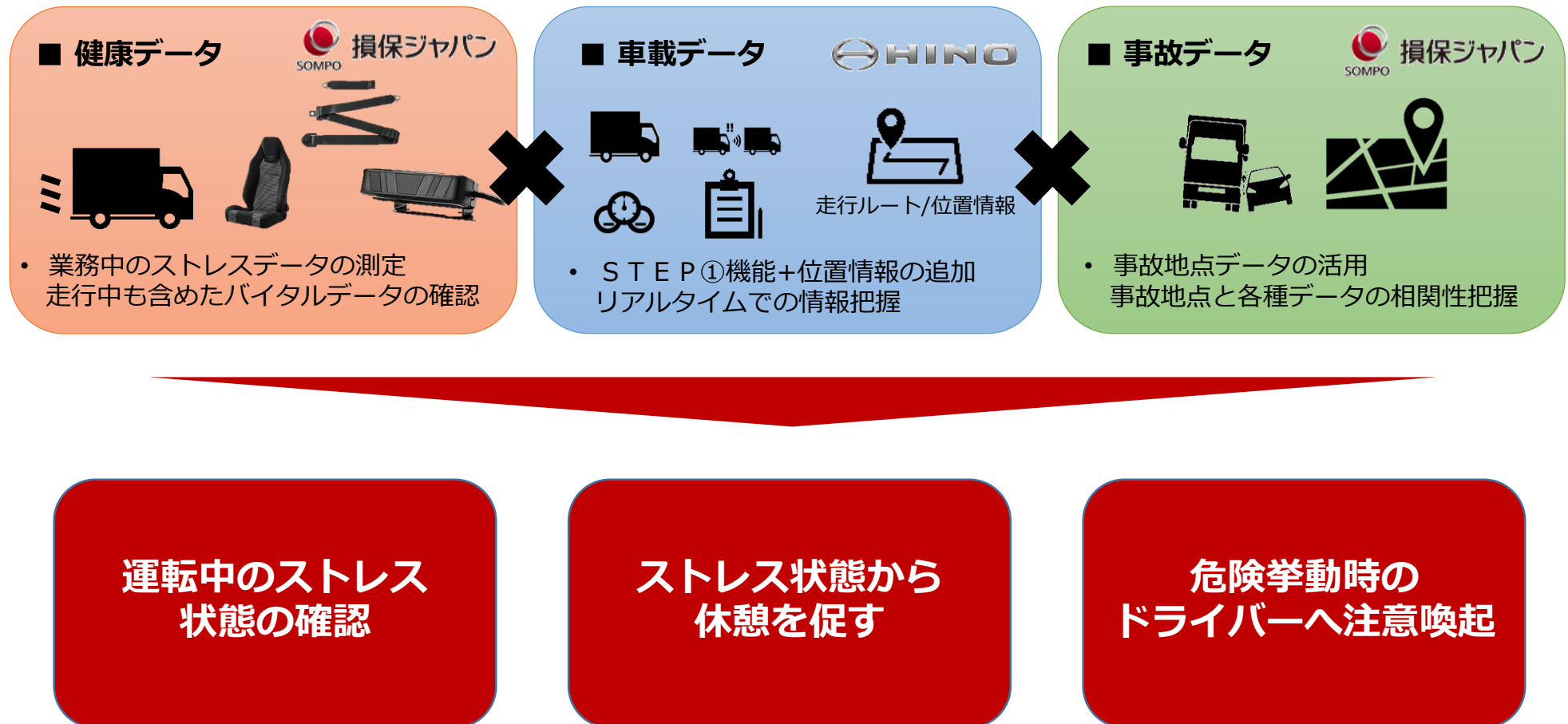
ストレス状態から
危険運転を予知

ドライバーへの
アドバイス/注意喚起

ドライバーへの
産業医の受診案内

STEP②以降におけるサービスの仕組み

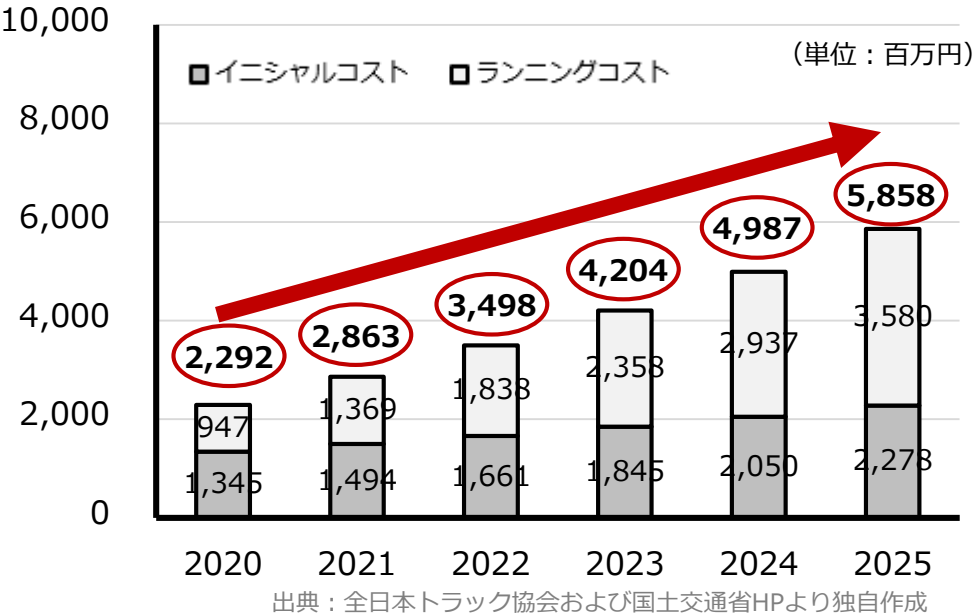
運行中および日常生活における健康データの測定によりリアルタイムで変化を確認



市場規模と本サービスの優位性

関連性のあるサービスにおいて国内市場規模の拡大が期待できる領域

■ IT点呼の国内市場規模（推定）～トラック輸送業



- IT点呼における国内の市場規模は年々増加傾向であり、2025年には約60億円の市場規模になる想定される。

■ 健康確認の製品比較

	内容	本サービス	対応企業	検査項目一覧
事故に繋がる疾病	疲労・ストレス	●	3社	血中活性酸素 フリッカー値
	心臓疾患	●	8社	心拍・脈拍数 心電図
	呼吸器系疾患	●	2社	肺活量/血中酸素
	脳出血疾患	▲	4社	収縮期 拡張期血圧
「指示」対応	アドバイス	●	1社	
	アラート機能	●	3社	異常値の場合

※上記の本サービスはSTEP①で使用するデバイスの性能になります。

- 健康状態を測定する製品はあるが、「指示」対応まで網羅する製品がほとんどない。

営業戦略およびマネタイズ案

両社の販売網を活かした販売促進による収益化に向けた利用料の設定

■STEP①におけるマネタイズ案

＜共同開発サービス＞



販売委託

＜販売代理店＞

日野自動車
販売会社様

全国40社
232拠点

損保ジャパン

代理店
約27,000店

利用料

販売会社様が既に
取引のあるお客さま

販売

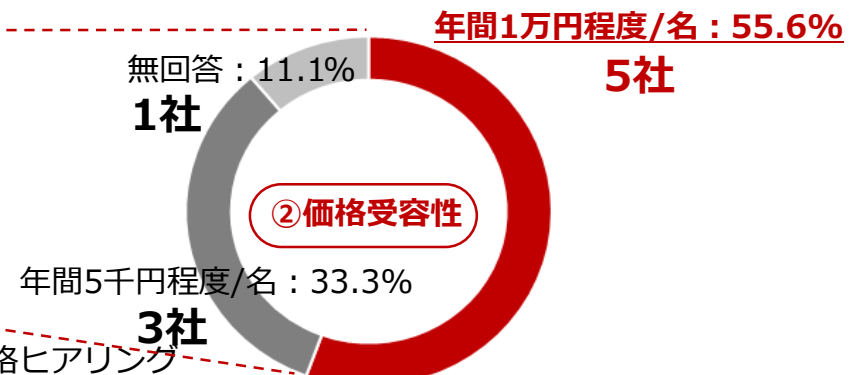
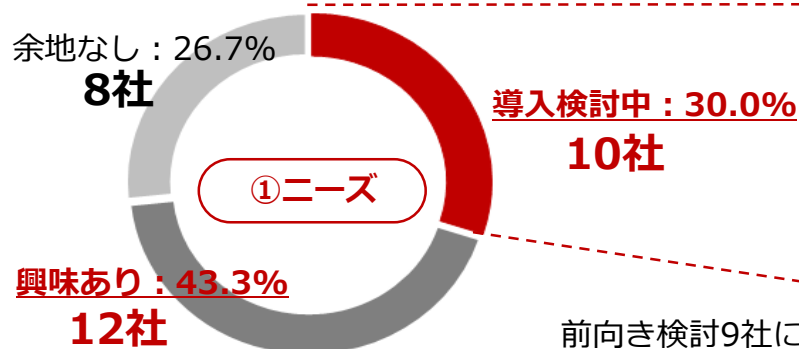
お客さま

事故削減を実施
したいお客さま

＜ご参考＞ 当社独自アンケート（2019年12月ー2020年2月実施）

①健康支援サービスを導入検討したいと思うか？

②どの程度の価格であれば購入するか？



前向き検討9社に対して価格ヒアリング

弊社はココロとカラダが共に健やかな状態での運転が広がり、
事故のない安心安全な社会の実現を
目指したいと考えています。

御社の強力なリソースを活用し、環境を整えることで、
事故ゼロに向けて御社と一緒に、
取組をさせていただきますようお願い申し上げます。



